

[Hondaの交通安全情報紙]

SJ

Since1971

SJ ホームページは

●編集室：本田技研工業株式会社 安全運転普及本部内
〒107-8556 東京都港区南青山2-1-1
TEL 03 (5412) 1736 http://www.honda.co.jp/safetyinfo/
●編集人：原田洋一

※ご不明な点がございましたら、
下記までお問い合わせください。
(株)アストクリエイティブ
安全運転普及本部係
TEL 03 (5439) 1191
E-mail : sj-mail@spirit.
honda.co.jp



Safety for Everyone

Honda はすべての人の
交通安全を願い活動しています。

2016

8・9

August・September

NO.479

CONTENTS

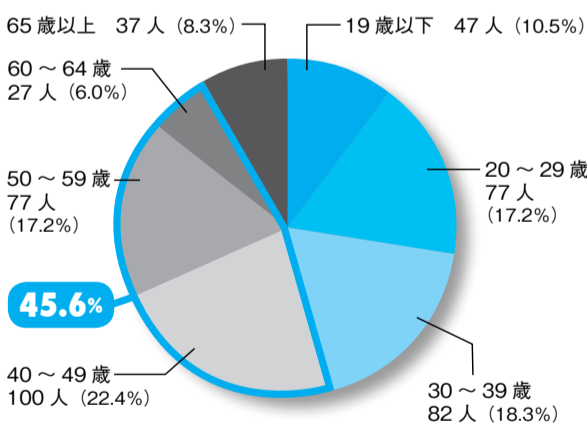
- P1 特集：ライダーのための安全運転教育
ライダーの安全意識を高める
- P4 教育最前線 / (株)ホンダ二輪・新宿
- P5 FRONT LINE / (一社)全国二輪車用品連合会 (JMCA) 代表理事 松原弘さん
- P6 現場訪問 / 交通教育センターレインボー浜名湖
TOPICS ① / イオンバイク (株)
TOPICS ② / 群馬県ホンダ会
- P7 危険予測トレーニング (KYT) / 渋滞で停車中のクルマの間を右折する (二輪車編)
SJクイズ
指導者ファイル / 栃木県宇都宮市・交通安全教育指導者の皆さん
- P8 SAFETY FOCUS / 和歌山県和歌山市



特集
ライダーのための
安全運転教育

ライダーの安全意識を高める

●自動二輪乗車中の年齢層別・交通事故死者数(平成27年)



平成27年の交通事故死者数 4117人 を状態別にみると、二輪(原付・自動二輪)乗車中は677人(構成率16.4%)。二輪全体の死者数は減少傾向にあるものの、自動二輪乗車中では447人と昨年に比べ微増(+5人)した。自動二輪乗車中の死者数の年齢層別上位は、40～49歳が100人と最も多く、次いで30～39歳(82人)、50～59歳(77人)、20～29歳(77人)となっており、40～64歳のいわゆる中高年齢層が全体の半数近くを占めている。この背景には、子育てなどが終わり生活に余裕が出てきたのを機に二輪の免許を取得する人や、若い頃にバイクに乗っていたが一度離れ、長いブランクを経て再びバイクに乗り始めるリターンライダーと呼ばれる人の増加が一因と考えられる。

二輪車は便利な移動手段として、また趣味で楽しむモビリティとして若者から高齢者まで幅広く利用されている。一方で、二輪車は交通事故に巻き込まれてしまうと、ライダーや同乗者が致命的なダメージを受ける可能性が高い。そうした二輪車事故を防ぐため、ライダーに安全運転教育の機会を提供していくことはたいへん重要である。今回はHondaをはじめ、二輪車業界・関係団体がライダーに対してどのような教育・啓発活動を行っているのか紹介する。

7月3日、鈴鹿サーキット交通教育センターで今年2回目となるスクールが開かれた。オリエンテーションでは、宮城さんが受講者に「私たちが若い頃は、バイクを速く走らせることができるライダーが格好い」と勘違いされていました。でも今は、速く走るよりも上手く走るライダーが格好よく見える時代が変わってきています。ですから、今日はスピードを出すトレーニングはありません。低い速度でバイクをきちんと操ることができ、スムーズで美しい大人のライディングを身につけていただくことが目標です」と挨拶した。スクールの内容は、免許を取得して間もない人や久しぶりにバイクに戻ってきた人がツーリングなど

宮城 光 氏 ●1982年レースデビューの後、1983年全国日本選手権 GP250ccクラスチャンピオンを獲得。全日本選手権 GP500ccクラスはHondaワークスライダーとして参戦。1993年から全米選手権へ参戦、デビューイヤーにSS650cc、SS600ccの2クラスでチャンピオンを獲得。現在は、安全運転講話、トークショー司会、日本テレビ「MotoGP」の解説、二輪専門誌「ライダーズクラブ」ではスーパーバイザーを務める。また、Hondaコレクションホールに収蔵されている車両の走行確認テストを担当している



このような中高年齢層のライダーの安全意識を高め、安全に楽しく、そして長くバイクに乗り続けてもらうことを目的に、Hondaは昨年より「ナイスミドルのためのスマートライディングスクール(以下、スクール)」を交通教育センター(もてぎ・埼玉・鈴鹿・熊本の4カ所)で開催している。対象となるのは40～60代で普通二輪免許または大型二輪免許を保有しているHonda二輪車オーナーの方々。スクールの講師は、モータージャーナリストとしてテレビや雑誌で活躍している元Hondaワークスライダーの宮城光さんという人もあり、20人の参加定員が毎回ほぼ埋まるほど好評を博している。

安全に楽しく、バイクに
乗り続けてほしい

Hondaの取組み

特集
ライダーのための
安全運転教育

ライダーの安全意識を高める



40km/hで走行し、直線コースの先に設置された赤いランプが点灯したら、そこから前輪・後輪ブレーキを使って停止する反応制動



をる安
きがラ
イが伝
えら
るこ
なな
る伝
に者
に
宮
城
さ
ん

けるの
だが、
ポイ
ントと
なる
パイ
ロ

いつまでも若い頃と同じ意識で乗らないように

に行った時、何に困るかに焦点を絞って、それを解決するために宮城さんが考案したものである。

午前中はブレーキングを中心としたトレーニング。直線コースを40km/hで走行し、後輪ブレーキのみ、前輪ブレーキのみ、前輪・後輪ブレーキの3つのパターンで停止する。それぞれで、バイクの挙動や停止距離の違いを受講者に確認してもらった。その後は反応制動。40km/hで走行し、直線コースの先に設置された赤いランプが点灯したら、そこから前輪・後輪ブレーキを使って急制動を行う。赤いランプを認知してから判断し、操作するまでに時間がかかることを体感してもらった。時間が経たないで、人間の反応時間には限界があることを理解し、次に起きそうなことを予測して運転することがたいへん重要であることを宮城さんは強調した。

「今日は皆さんが日頃、何となくやってることを意識的に体感していただきました。バイクは一定のスピードが出ていけば安定していますが、低速になると不安定になります。この不安定さを体験して、トレーニングの最中にヒヤッとした方も多いでしよう。街中で同じようなことが起きても、皆さんは次に起こるバイクの挙動が予測できるようなったはずですよ。若い頃のように予期せぬ事態にすぐに対応するのは難しいと思いますので、頭で考えて、この先どうなるか危険を予測し準備しておく。これが私たちに必要な安全運転技術だと思います」と宮城さんが締めくくって、スクールは閉講した。

「例えば、コンビニから車道に出ようとハンドルをきった時、クルマの接近に気づいて急停止しなければいけないことがあります。この課題は、そのような場面でのバランスを崩して転倒しないようにするためのトレーニングです」と宮城さんは目的を説明する。特に、右にターンする途中で止まる時、受講者の多くがバランスを崩して右足を着地させてしまい、後輪ブレーキを上手く使うことができなかった。最後はUターン。後方の安全を確認してから、行きたい方向に顔をしっかりと向けることがポイントである。これを意識しながら半クラッチとブレーキの操作を組み合わせ、スムーズなUターンを受講者は身につけていく。

でも安全運転につながることを身につけたいと思ひ、申し込みました。今日は転倒してしまふこともありませんでしたが、これがスクールの中で良かったと思ひています。公道で転倒しないように気をつけるべきことを身体で覚えることができました」と話す。また、半年前にホンダCB400SBを購入したばかりだといふ58歳の受講者は「宮城さんから直に指導を受けられたので、とても満足しています。より安全にバイクを運転していきたい」と感想を語った。

「スクールを受講するお客様は、たいへん安全意識の高い方々といえるでしょう。問題は若い頃と同じ感覚で乗り続けているライダーです。20代の頃に似合っていた服が40代、50代になっても似合うとは限りません。バイクの運転も、それと同じではないでしょうか。年齢に合ったバイクの楽しみ方をされたほうが、より深みのある時間を過ごしていただけると思います」と、宮城さんは中高年ライダーに年齢に見合ったバイクの楽しみ方をしてほしいと訴える。



受講者の多くが苦戦したオフセットパイロストップ

より安全・安心で快適な二輪車利用と環境づくりを推進しているのが(一社)日本二輪車普及安全協会(以下、日本二普協)である。日本二普協は国内二輪車メーカー4社(ホンダ・ヤマハ・スズキ・カワサキ)を中心に4社・団体の会員で構成され、二輪車が安全で楽しいモビリティとしてその利用がさらに広がるよう、二輪販売店や関

「今日では全国7カ所の交通安全センターで「ホンダモーターサイクリスト・スクール」を開催するなど、ライダーへの安全運転教育に取り組んでいる。

「安全意識の高い方々といえるでしょう。問題は若い頃と同じ感覚で乗り続けているライダーです。20代の頃に似合っていた服が40代、50代になっても似合うとは限りません。バイクの運転も、それと同じではないでしょうか。年齢に合ったバイクの楽しみ方をされたほうが、より深みのある時間を過ごしていただけると思います」と、宮城さんは中高年ライダーに年齢に見合ったバイクの楽しみ方をしてほしいと訴える。

「安全意識の高い方々といえるでしょう。問題は若い頃と同じ感覚で乗り続けているライダーです。20代の頃に似合っていた服が40代、50代になっても似合うとは限りません。バイクの運転も、それと同じではないでしょうか。年齢に合ったバイクの楽しみ方をされたほうが、より深みのある時間を過ごしていただけると思います」と、宮城さんは中高年ライダーに年齢に見合ったバイクの楽しみ方をしてほしいと訴える。

でも安全運転につながることを身につけたいと思ひ、申し込みました。今日は転倒してしまふこともありませんでしたが、これがスクールの中で良かったと思ひています。公道で転倒しないように気をつけるべきことを身体で覚えることができました」と話す。また、半年前にホンダCB400SBを購入したばかりだといふ58歳の受講者は「宮城さんから直に指導を受けられたので、とても満足しています。より安全にバイクを運転していきたい」と感想を語った。

二輪車業界としての安全運転啓発・教育

日本二輪車普及安全協会の取り組み

「安全意識の高い方々といえるでしょう。問題は若い頃と同じ感覚で乗り続けているライダーです。20代の頃に似合っていた服が40代、50代になっても似合うとは限りません。バイクの運転も、それと同じではないでしょうか。年齢に合ったバイクの楽しみ方をされたほうが、より深みのある時間を過ごしていただけると思います」と、宮城さんは中高年ライダーに年齢に見合ったバイクの楽しみ方をしてほしいと訴える。

「安全意識の高い方々といえるでしょう。問題は若い頃と同じ感覚で乗り続けているライダーです。20代の頃に似合っていた服が40代、50代になっても似合うとは限りません。バイクの運転も、それと同じではないでしょうか。年齢に合ったバイクの楽しみ方をされたほうが、より深みのある時間を過ごしていただけると思います」と、宮城さんは中高年ライダーに年齢に見合ったバイクの楽しみ方をしてほしいと訴える。

「安全意識の高い方々といえるでしょう。問題は若い頃と同じ感覚で乗り続けているライダーです。20代の頃に似合っていた服が40代、50代になっても似合うとは限りません。バイクの運転も、それと同じではないでしょうか。年齢に合ったバイクの楽しみ方をされたほうが、より深みのある時間を過ごしていただけると思います」と、宮城さんは中高年ライダーに年齢に見合ったバイクの楽しみ方をしてほしいと訴える。

「安全意識の高い方々といえるでしょう。問題は若い頃と同じ感覚で乗り続けているライダーです。20代の頃に似合っていた服が40代、50代になっても似合うとは限りません。バイクの運転も、それと同じではないでしょうか。年齢に合ったバイクの楽しみ方をされたほうが、より深みのある時間を過ごしていただけると思います」と、宮城さんは中高年ライダーに年齢に見合ったバイクの楽しみ方をしてほしいと訴える。



鹿児島県で開催された高齢者を対象にしたグッドライダーミーティング

(一社)日本二輪車普及安全協会 安全普及部長の大沢利方さん

「安全意識の高い方々といえるでしょう。問題は若い頃と同じ感覚で乗り続けているライダーです。20代の頃に似合っていた服が40代、50代になっても似合うとは限りません。バイクの運転も、それと同じではないでしょうか。年齢に合ったバイクの楽しみ方をされたほうが、より深みのある時間を過ごしていただけると思います」と、宮城さんは中高年ライダーに年齢に見合ったバイクの楽しみ方をしてほしいと訴える。

「安全意識の高い方々といえるでしょう。問題は若い頃と同じ感覚で乗り続けているライダーです。20代の頃に似合っていた服が40代、50代になっても似合うとは限りません。バイクの運転も、それと同じではないでしょうか。年齢に合ったバイクの楽しみ方をされたほうが、より深みのある時間を過ごしていただけると思います」と、宮城さんは中高年ライダーに年齢に見合ったバイクの楽しみ方をしてほしいと訴える。

「安全意識の高い方々といえるでしょう。問題は若い頃と同じ感覚で乗り続けているライダーです。20代の頃に似合っていた服が40代、50代になっても似合うとは限りません。バイクの運転も、それと同じではないでしょうか。年齢に合ったバイクの楽しみ方をされたほうが、より深みのある時間を過ごしていただけると思います」と、宮城さんは中高年ライダーに年齢に見合ったバイクの楽しみ方をしてほしいと訴える。

「安全意識の高い方々といえるでしょう。問題は若い頃と同じ感覚で乗り続けているライダーです。20代の頃に似合っていた服が40代、50代になっても似合うとは限りません。バイクの運転も、それと同じではないでしょうか。年齢に合ったバイクの楽しみ方をされたほうが、より深みのある時間を過ごしていただけると思います」と、宮城さんは中高年ライダーに年齢に見合ったバイクの楽しみ方をしてほしいと訴える。

「安全意識の高い方々といえるでしょう。問題は若い頃と同じ感覚で乗り続けているライダーです。20代の頃に似合っていた服が40代、50代になっても似合うとは限りません。バイクの運転も、それと同じではないでしょうか。年齢に合ったバイクの楽しみ方をされたほうが、より深みのある時間を過ごしていただけると思います」と、宮城さんは中高年ライダーに年齢に見合ったバイクの楽しみ方をしてほしいと訴える。

通学に二輪車を利用する高校生への教育を強化

通学に二輪車を利用する高校生への安全運転教育に対しても、日本二普協は積極的にかかわっている。生徒の原付通学を許可している高校は少なくない。そうした生徒には事故防止のための安全運転教育が必要だが、高校だけで実技指導を行うのは難しい。そこで、日本二普協と、その地方組織である県二普協が指導員の養成を行い、高校が実施する生徒への安全運転講習会に協力している。

※グッドライダー・防犯登録＝二輪車の盗難防止と万が一の盗難時の早期発見を実現するための防犯システム。グッドライダー・防犯登録取扱販売店で加入できる。

特集
ライダーのための
安全運転教育

ライダーの安全意識を高める



「平成28年度高等学校二輪車マナーアップ講習会」には埼玉県内の5つの高校から23人が参加。実技を始める前に、二輪車安全運転推進委員会特別指導員がヘルメットのおひもは指一本入る程度にしっかりと締めるよう生徒に徹底

交通安全教育講座」を実施したり、「高等学校二輪車マナーアップ講習会」の開催に協力している。「高校生の交通安全教育講座」は埼玉県二普協が主催し、平成27年度は3校2252人の生徒が受講した。
「4年前、(二社)全国高等学校PTA連合会が宣言してきた『三不運動(免許を取らない、バイクを買わない、バイクに乗らない)』は『自転車・バイク・歩行者のマナーアップ運動』へと方向転換しました。しかし、『三不運動』から脱しきれないケースもあります。こうした状況にある県には高校生に対する交通安全教育の環境整備をはたらかけていく必要があります」と、この取組みの意義を大沢さんは説明する。
7月17日には、「平成28年度 高等学校二輪車マナーアップ講習会」が秩父自動車学校(埼玉県横瀬町)で開かれた。同講習会は埼玉県教育委員会の主催で、今年度新たに二輪車通学を許可された公立高等学校の生徒のマナーアップを図るため、二輪車乗車に必要な技能や交通安全に対する望ましい態度を育成することを目的としている。
今回は5校23人の生徒が参加した。
開講式では、主催者を代表して埼玉県教育庁立学校部保健体育課の石川泰成指導主事が「今日は、交通社会で生きる一員としての責任や義務を学び、安全運転技能と交通事故防止の方法を身につけてほしいと思います」と挨拶した。生徒は2つの班に分かれ、実技と講義を交互に受講する。
実技は二輪車安全運転推進委員会特別指導員が担当。前半は一本橋、オフセットパイロンスラローム、低速バランス、坂道で

の課題に取り組む。法規走行では指導員が一人ひとりの運転を観察しながら、一時停止場所は止まって右、左、右をよく観ること、交差点を右折する際はあらかじめ道路の中央に寄って、交差点中心の直近の内側を徐行して通ることなどを生徒に促した。
後半はコーナリング。90度のカーブを15km/h、20km/h、25km/h、30km/hで通過する。カーブの路面に表示されている2本の白い点線の間を走らなければならないが、25km/hになると多くの生徒が線の外側にふくらんでしまう。指導員は「カーブには曲がり切れる限界速度が存在します。どんなに上手なライダーでもその限界を超えることはできません。そのため、カーブの手前で安全に曲がれる速度までスピードを落とすとしてカーブに進入することが必要です」と説明し、それを30km/hで走行する時に実践してもらった。最後にカーブやS字、クランクを組み合わせたコースを走行することで今日学んだことを再確認し、実技は終了となった。
講義では埼玉県警察本部交通安全課課長補佐の石合龍也さんが、運転の三要素である「認知・判断・操作」の仕組みなどを解説。交通事故を防ぐためには、常に危険を予測しておくことが重要であると述べた。このほか、生徒たちは交通事故などで負傷者を見つけた場合に必要人工呼吸や胸骨圧迫といった救命救急法についても体験を通じて学んだ。

交通安全教育講座」を実施したり、「高等学校二輪車マナーアップ講習会」の開催に協力している。「高校生の交通安全教育講座」は埼玉県二普協が主催し、平成27年度は3校2252人の生徒が受講した。
「4年前、(二社)全国高等学校PTA連合会が宣言してきた『三不運動(免許を取らない、バイクを買わない、バイクに乗らない)』は『自転車・バイク・歩行者のマナーアップ運動』へと方向転換しました。しかし、『三不運動』から脱しきれないケースもあります。こうした状況にある県には高校生に対する交通安全教育の環境整備をはたらかけていく必要があります」と、この取組みの意義を大沢さんは説明する。
7月17日には、「平成28年度 高等学校二輪車マナーアップ講習会」が秩父自動車学校(埼玉県横瀬町)で開かれた。同講習会は埼玉県教育委員会の主催で、今年度新たに二輪車通学を許可された公立高等学校の生徒のマナーアップを図るため、二輪車乗車に必要な技能や交通安全に対する望ましい態度を育成することを目的としている。
今回は5校23人の生徒が参加した。
開講式では、主催者を代表して埼玉県教育庁立学校部保健体育課の石川泰成指導主事が「今日は、交通社会で生きる一員としての責任や義務を学び、安全運転技能と交通事故防止の方法を身につけてほしいと思います」と挨拶した。生徒は2つの班に分かれ、実技と講義を交互に受講する。
実技は二輪車安全運転推進委員会特別指導員が担当。前半は一本橋、オフセットパイロンスラローム、低速バランス、坂道で

の課題に取り組む。法規走行では指導員が一人ひとりの運転を観察しながら、一時停止場所は止まって右、左、右をよく観ること、交差点を右折する際はあらかじめ道路の中央に寄って、交差点中心の直近の内側を徐行して通ることなどを生徒に促した。
後半はコーナリング。90度のカーブを15km/h、20km/h、25km/h、30km/hで通過する。カーブの路面に表示されている2本の白い点線の間を走らなければならないが、25km/hになると多くの生徒が線の外側にふくらんでしまう。指導員は「カーブには曲がり切れる限界速度が存在します。どんなに上手なライダーでもその限界を超えることはできません。そのため、カーブの手前で安全に曲がれる速度までスピードを落とすとしてカーブに進入することが必要です」と説明し、それを30km/hで走行する時に実践してもらった。最後にカーブやS字、クランクを組み合わせたコースを走行することで今日学んだことを再確認し、実技は終了となった。
講義では埼玉県警察本部交通安全課課長補佐の石合龍也さんが、運転の三要素である「認知・判断・操作」の仕組みなどを解説。交通事故を防ぐためには、常に危険を予測しておくことが重要であると述べた。このほか、生徒たちは交通事故などで負傷者を見つけた場合に必要人工呼吸や胸骨圧迫といった救命救急法についても体験を通じて学んだ。

埼玉県教育庁立学校部保健体育課によれば、これまで受講した生徒が在学中に交通事故に遭っていないということで、この講習会は一定の成果を収めているといえる。
日本二普協の大沢さんは「私たち二輪車にかかわるすべての人間や業界団体が心をひとつにして、二輪車の交通事故抑止に努めていくことが重要だと考えています」という。そして、ライダーに「運転技能の向上はもちろんです。交通安全の中で他者を思いやる安全運転の励行と交通マナーの実践をお願いしたいと思っています」と呼びかける。

埼玉県教育庁立学校部保健体育課によれば、これまで受講した生徒が在学中に交通事故に遭っていないということで、この講習会は一定の成果を収めているといえる。
日本二普協の大沢さんは「私たち二輪車にかかわるすべての人間や業界団体が心をひとつにして、二輪車の交通事故抑止に努めていくことが重要だと考えています」という。そして、ライダーに「運転技能の向上はもちろんです。交通安全の中で他者を思いやる安全運転の励行と交通マナーの実践をお願いしたいと思っています」と呼びかける。

埼玉県教育庁立学校部保健体育課によれば、これまで受講した生徒が在学中に交通事故に遭っていないということで、この講習会は一定の成果を収めているといえる。
日本二普協の大沢さんは「私たち二輪車にかかわるすべての人間や業界団体が心をひとつにして、二輪車の交通事故抑止に努めていくことが重要だと考えています」という。そして、ライダーに「運転技能の向上はもちろんです。交通安全の中で他者を思いやる安全運転の励行と交通マナーの実践をお願いしたいと思っています」と呼びかける。

埼玉県教育庁立学校部保健体育課によれば、これまで受講した生徒が在学中に交通事故に遭っていないということで、この講習会は一定の成果を収めているといえる。
日本二普協の大沢さんは「私たち二輪車にかかわるすべての人間や業界団体が心をひとつにして、二輪車の交通事故抑止に努めていくことが重要だと考えています」という。そして、ライダーに「運転技能の向上はもちろんです。交通安全の中で他者を思いやる安全運転の励行と交通マナーの実践をお願いしたいと思っています」と呼びかける。

埼玉県教育庁立学校部保健体育課によれば、これまで受講した生徒が在学中に交通事故に遭っていないということで、この講習会は一定の成果を収めているといえる。
日本二普協の大沢さんは「私たち二輪車にかかわるすべての人間や業界団体が心をひとつにして、二輪車の交通事故抑止に努めていくことが重要だと考えています」という。そして、ライダーに「運転技能の向上はもちろんです。交通安全の中で他者を思いやる安全運転の励行と交通マナーの実践をお願いしたいと思っています」と呼びかける。

埼玉県教育庁立学校部保健体育課によれば、これまで受講した生徒が在学中に交通事故に遭っていないということで、この講習会は一定の成果を収めているといえる。
日本二普協の大沢さんは「私たち二輪車にかかわるすべての人間や業界団体が心をひとつにして、二輪車の交通事故抑止に努めていくことが重要だと考えています」という。そして、ライダーに「運転技能の向上はもちろんです。交通安全の中で他者を思いやる安全運転の励行と交通マナーの実践をお願いしたいと思っています」と呼びかける。

埼玉県教育庁立学校部保健体育課によれば、これまで受講した生徒が在学中に交通事故に遭っていないということで、この講習会は一定の成果を収めているといえる。
日本二普協の大沢さんは「私たち二輪車にかかわるすべての人間や業界団体が心をひとつにして、二輪車の交通事故抑止に努めていくことが重要だと考えています」という。そして、ライダーに「運転技能の向上はもちろんです。交通安全の中で他者を思いやる安全運転の励行と交通マナーの実践をお願いしたいと思っています」と呼びかける。

埼玉県教育庁立学校部保健体育課によれば、これまで受講した生徒が在学中に交通事故に遭っていないということで、この講習会は一定の成果を収めているといえる。
日本二普協の大沢さんは「私たち二輪車にかかわるすべての人間や業界団体が心をひとつにして、二輪車の交通事故抑止に努めていくことが重要だと考えています」という。そして、ライダーに「運転技能の向上はもちろんです。交通安全の中で他者を思いやる安全運転の励行と交通マナーの実践をお願いしたいと思っています」と呼びかける。

埼玉県教育庁立学校部保健体育課によれば、これまで受講した生徒が在学中に交通事故に遭っていないということで、この講習会は一定の成果を収めているといえる。
日本二普協の大沢さんは「私たち二輪車にかかわるすべての人間や業界団体が心をひとつにして、二輪車の交通事故抑止に努めていくことが重要だと考えています」という。そして、ライダーに「運転技能の向上はもちろんです。交通安全の中で他者を思いやる安全運転の励行と交通マナーの実践をお願いしたいと思っています」と呼びかける。

二輪車業界は毎年7月、8月、9月をバイクの月間として、二輪車の楽しみや安全運転を推進する様々なイベントを行っている。その中心となるのが「バイクの日」だ。平成元年、総務庁(現在の内閣府)交通安全対策本部が二輪車の交通事故撲滅を目的に8月19日を「バイクの日」に制定した。全国の自治体の交通安全対策室や地元警察が、この日を中心に二輪車の安全運転講習会等を展開。同様に二輪車関係団体も二輪車の

二輪車業界は毎年7月、8月、9月をバイクの月間として、二輪車の楽しみや安全運転を推進する様々なイベントを行っている。その中心となるのが「バイクの日」だ。平成元年、総務庁(現在の内閣府)交通安全対策本部が二輪車の交通事故撲滅を目的に8月19日を「バイクの日」に制定した。全国の自治体の交通安全対策室や地元警察が、この日を中心に二輪車の安全運転講習会等を展開。同様に二輪車関係団体も二輪車の

二輪車業界は毎年7月、8月、9月をバイクの月間として、二輪車の楽しみや安全運転を推進する様々なイベントを行っている。その中心となるのが「バイクの日」だ。平成元年、総務庁(現在の内閣府)交通安全対策本部が二輪車の交通事故撲滅を目的に8月19日を「バイクの日」に制定した。全国の自治体の交通安全対策室や地元警察が、この日を中心に二輪車の安全運転講習会等を展開。同様に二輪車関係団体も二輪車の

二輪車業界は毎年7月、8月、9月をバイクの月間として、二輪車の楽しみや安全運転を推進する様々なイベントを行っている。その中心となるのが「バイクの日」だ。平成元年、総務庁(現在の内閣府)交通安全対策本部が二輪車の交通事故撲滅を目的に8月19日を「バイクの日」に制定した。全国の自治体の交通安全対策室や地元警察が、この日を中心に二輪車の安全運転講習会等を展開。同様に二輪車関係団体も二輪車の

二輪車業界は毎年7月、8月、9月をバイクの月間として、二輪車の楽しみや安全運転を推進する様々なイベントを行っている。その中心となるのが「バイクの日」だ。平成元年、総務庁(現在の内閣府)交通安全対策本部が二輪車の交通事故撲滅を目的に8月19日を「バイクの日」に制定した。全国の自治体の交通安全対策室や地元警察が、この日を中心に二輪車の安全運転講習会等を展開。同様に二輪車関係団体も二輪車の

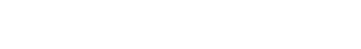
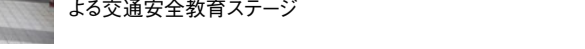
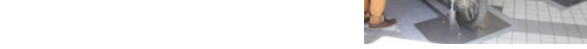
このように、二輪車の業界・関係団体は多くのライダーにバイクを楽しむ機会を提供し、安全運転啓発にも取り組んでいる。ホンダは二輪車のリーディングカンパニーとして、こうした業界活動にも積極的に参加するとともに、独自でもライダーの安全意識向上を図るための取組みをより一層強化していく考えだ。

このように、二輪車の業界・関係団体は多くのライダーにバイクを楽しむ機会を提供し、安全運転啓発にも取り組んでいる。ホンダは二輪車のリーディングカンパニーとして、こうした業界活動にも積極的に参加するとともに、独自でもライダーの安全意識向上を図るための取組みをより一層強化していく考えだ。

このように、二輪車の業界・関係団体は多くのライダーにバイクを楽しむ機会を提供し、安全運転啓発にも取り組んでいる。ホンダは二輪車のリーディングカンパニーとして、こうした業界活動にも積極的に参加するとともに、独自でもライダーの安全意識向上を図るための取組みをより一層強化していく考えだ。

このように、二輪車の業界・関係団体は多くのライダーにバイクを楽しむ機会を提供し、安全運転啓発にも取り組んでいる。ホンダは二輪車のリーディングカンパニーとして、こうした業界活動にも積極的に参加するとともに、独自でもライダーの安全意識向上を図るための取組みをより一層強化していく考えだ。

このように、二輪車の業界・関係団体は多くのライダーにバイクを楽しむ機会を提供し、安全運転啓発にも取り組んでいる。ホンダは二輪車のリーディングカンパニーとして、こうした業界活動にも積極的に参加するとともに、独自でもライダーの安全意識向上を図るための取組みをより一層強化していく考えだ。



会場となったベルサール秋葉原の最新車両が展示され、秋葉原を訪れた多くの人の注目を集めた

タレントの水野裕子さん(写真中央)をゲストに迎えた警視庁・女性白バイ隊クイーンスターズとピーポくんによる交通安全教育ステージ

各クラスの個人優勝者

各クラスの個人優勝者

各クラスの個人優勝者